

II

公衆浴場の新しい役割

Q

これからの銭湯に求められる役割とはなんでしょう？



地域のリラクゼーションセンターとしての役割

地域の人々の交流の場としての役割

高齢者・障害者の支援の場としての役割

健康づくりの場としての役割

伝統文化の継承、教育の場としての役割

A

銭湯は日常生活密着型の住民サービスを提供できる場です。この特色を生かして、地域に根ざした住民の憩いと交流・健康づくりの拠点となる方向を目指すことが、これからの銭湯の活動の基本となるでしょう。次に、これからの銭湯の役割をまとめてみました。

参考にしてください。

Q

リラクゼーションセンターとなるには、どうすればいいですか？

銭湯の大きな湯船で入浴する心地よさは誰も実感するところですが、科学的にも、狭い風呂で入浴した場合より、銭湯で入浴した場合のほうがリラックス効果が大きいことが証明されています。また、銭湯浴室内には健康によいとされるマイナスイオンが多量に含まれていることを示すデータもあります。

このような銭湯のリフレッシュ効果、リラックス効果を大いにアピールして、内風呂のある人にも積極的に利用してもらいましょう。また、ジェットバスや打たせ湯などの設置も検討してみるといいでしょう。



II

公衆浴場の新しい役割

Q

地域交流の場となるには、
どうすればいいですか？

A

地域に暮らす人々との結びつきを深めるために、地域社会と連動し、銭湯を各種イベントの場として積極的に提供しましょう。カラオケ大会、各種同好会などの会合、バザー、フリーマーケットなどに場所を提供し、コミュニティセンターとしての役割を担うようにします。また、掲示板などで地域のイベント、祭りや伝統行事、文化施設の情報や開設を提供し、地域に密着した情報の発信の場とすることも考えていいでしょう。



Q

高齢者・障害者の支援の場となるには、
どうすればいいですか？

A

行政や福祉団体と連携して、積極的に要介護・要支援の高齢者・障害者の入浴を受け入れます。そのためには銭湯の設備をバリアフリー化したり、銭湯に指導員を配置するなどの対策が必要でしょう。また、レジオネラ症防止対策など、衛生管理にも十分配慮していく必要があります。



Q

健康づくりの場となるには、
どうすればいいですか？

A 積極的健康づくりの場となるような環境整備をします。必要に応じて流水浴、気泡浴などの設備を導入したり、人工浴剤や薬湯などの活用も考えられていいでしょう。ソフト面では、行政や医療機関と連携して、銭湯で地域住民の健康づくりやそのキャンペーンのためのプログラムを導入したり、実施してみましょ。銭湯に医師、保健師、運動指導士などが出向いて、健康講座を実施したり、食生活や栄養指導、簡単な健康チェック、健康アドバイスなどの保健活動を行えば、住民の健康への関心も大いに高まるでしょう。



Q

伝統文化の継承、教育の場となるには、
どうすればいいですか？



A 菖蒲湯（しょうぶゆ）、柚子湯（ゆずゆ）などの伝統行事を守り、若者や子どもにも銭湯でのマナーを教えること、地域の高齢者と子どもたちの銭湯での交流も、教育の一環といえます。